



木もれびの森の樹木

ヌルデ（ウルシ科ヌルデ属）

ウマヤドノミコ 厩戸皇子が 14 歳の時、ソガノウマコ 尊仏派の蘇我馬子とモノノベノホリヤ 廃仏派の物部守屋が戦をしました。馬子側についた皇子は、戦勝を祈願してヌルデの木を彫って四天王像を作ったそうです。その結果、尊仏派が勝利し、わが国に仏教が興隆したわけですが、ヌルデはカツノキ（勝の木）として縁起物になりました。小正月にヌルデの木を使って門入道や削り掛けなどを作って飾る風習が各地に残っています。



ヌルデはウルシ科で、幹を傷つけると白い樹液が出ますが、漆と違ってかぶれません（たまにはかぶれる人もいるかも）。葉は羽状複葉で、葉軸に翼があり、すぐにそれと分かります。夏以降、トサカフトメイガ（蛾）の幼虫が糸を吐いて作ったハンモック状の巣が枝先に散見されます。葉はトサカフトメイガの食草なのです。

ところで、しょっぱい木の実をご存知ですか。ヌルデの実は熟して白く粉をふいたようになると塩味がします。リンゴ酸カルシウムが分泌したものです。舐めるとしょっぱい実なんて面白いですね。



ヌルデは虫こぶ（今は、ゴールと呼ばれています）でも有名です。五倍子という三文字をフシと読み、ヌルデの虫こぶ（ヌルデミミフシ）の事です。ヌルデシロアブラムシが作ったものです。タンニンが多く含まれるので、媒染剤、薬用、インクなどに利用される貴重な工業資源です。中国では、今でもヌルデを資源として栽培しているそうです。わが国では、お歯黒の材料として使われてきました。既婚女性や高貴な男性も歯

を黒く染めていた時代がありましたね。そういえば以前、こんな遊びをしたことがあります。五倍子を水に溶かしたものを使って紙の上に字を書くのですが、透明ですから見えません。それに硫酸第一鉄の液をスプレーで吹き付けると黒い字が浮かび出てきます。お歯黒の原理ですね。ヌルデは昔から日本人と深くかかわった、色々と興味深い木です。（鳥飼）

木もれびの森の薬用植物（4）

オオバコ（オオバコ科 オオバコ属）

オオバコは野原や道端などに咲くありふれた植物です。5-6月に咲く花は両性花で、花穂の下方から咲き、まず雌しべが現れ、雌しべがしおれる頃に雄しべが現れます。そのため、上部は雌しべ、真ん中は雄しべ、下部は実という花穂がよく見られます。花のつく茎が丈夫なため、根元から取り、2つ折にして2人が互いに引っ掛け合って引っ張り合い、どちらが切れないかを競うオオバコ相撲を子供のころよくやったものです。広場の草刈り等が行われ

ると、どの植物も根こそぎ刈られてしまいますが、オオバコ位は残しておいてほしいものです。

さて、同じ植物から作られる生薬でも、民間薬として使用されるものと、漢方薬材料になるものがあり、両者は製法が異なります。オオバコが基原植物の生薬には、車前子（シャゼンシ）と車前草（シャゼンソウ）があります。「車前」とは、オオバコが牛馬車のよく通る道端に生えていたことに由来します。車前草は、花期の全草を乾燥した民間薬で、腫れ物の吸い出しや切り傷の治療、鎮咳去痰等に使用されてきました。これに対して、車前子は、秋に種子が成熟した果穂を刈り



取って乾燥し、種子を集めた生薬で、清熱利尿、鎮咳去痰作用があり、漢方薬の材料として使用されています。漢方処方では、大部分2種類以上の生薬が配合され、生薬の組み合わせを変えると薬効が大きく変化します。牛車腎気丸は、シニア世代のための漢方薬である八味地黄丸に牛膝（ヒナタイノコヅチの根）と車前子を加えたものですが、ある種の抗がん剤の副作用であるしびれにも有効で、現代医療にも取り入れられています。（川村）



雌しべ 雄しべ

木もれびの森に咲く貴重種植物

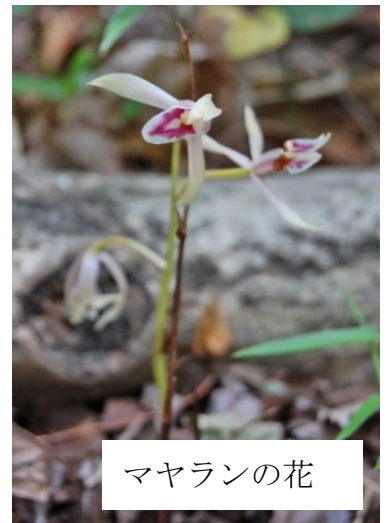
マヤラン（ラン科 シュンラン属）

昨年秋偶然に「相模原中央緑地」散策路の「中道」あたりに咲いているマヤランが見つかりました。まわりを探してみると、花茎を伸ばしひっそりと咲いている所が、二・三か所ありました。本当に小さいので、散歩している人達に踏まれてしまいそうです。秋に見つかったので、花期は秋だと思っていましたが、調べてみると、7～10月の2回咲きのようです。和名は神戸市の「摩耶山」で初めて発見されたことによって付けられています。

マヤランは高さ10～30cmくらいで、すくっと立ち、2～6個花



をまばらにつけます。花は白色に近く赤紫色の模様が入るととても可愛くて、シュンランの花に似ています。根も葉も無くて、光合成の能力がありません。栄養分は、地下茎の中にある菌類からもらっている菌従属栄養植物（腐生植物）です。レッドリストに絶滅危惧Ⅱ類とされています。減少の主な原因は、「森林伐採」「園芸採取」のようです。



マヤランは、クヌギやコナラなどの【ブナ科】やイヌシデ【カバノキ科】と相性がよいそうなので、木もれびの森はマヤランにとって、とても居心地の良い場所というわけです。いつまでもマヤランの可憐な花が見られるように、こもれびの森を大事にしていきたいものですね。（田中）